



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年4月1日

4月号・第183号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



用水路整備(協働作業)

## Contents



ホームページでは、カラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	やさしい昆虫講座	11
多土済々	2	俳句百景	12
Monthly Repo.ならやま	3	ギャラリーならやま・癒しの散歩道	13
里山の今	4・5・6	ならやまプロジェクト	14
シイタケ菌打ちイベント報告	7	行事案内	15
2月月例研修会(探鳥会)報告	8	行事案内 & 歴文1泊研修予告	16
2月歴文研修会報告	9	幹事会報告・申し合せ・行事予告	17
3月自然観察会報告	10		

# 壮春力歩

会長 鈴木末一

\*\*\*\*\*

## 150の個性とニーズ

大役を仰せつかり、間もなく1年が経過します。振り返りますと、会創立15周年・ならやまプロジェクト10周年の大きな節目にあたり、会員の皆様方には各種の記念事業推進に多大なご尽力お力添えを賜りました。改めて深く感謝申し上げます。「たかがボランティア、されどボランティア」「会員の皆様方お一人お一人が主役です」を常に念頭に置きながら運営に心掛けてきた積もりではあります。また、功成り名を遂げられた150の個性とニーズには、計り知れない重みと深さがあります。そのような状況の中で最大公約数として、どこに着地点を設定していくのがベターなのかと自問自答の連続であり、これからも続いていくものと思います。普段の何気ない会話の中から真意を出来る限り汲み取る努力をしてまいりたいと考えています。

## コミュニケーションが共感を生む

ボランティアを単なる“労力”として捉えることは、多様性のある社会形成に支障をきたすことになりかねません。個々の意思にもとづいて展開するボランティア活動こそが、重要な要素になるのです。個々の自発的な考えを尊重するがゆえに合議制をとることも多く、それが必ずしも効率的でないこともありますし、数々の課題や問題が発生しやすくなってきました。そこに適切なコミュニケーションの必要性があります。コミュニケーションを大切にすることが新たな展開へのヒントになったり、相互理解につながり、共感を生み、本当に必要な活動の姿を見出すことができたりするようになるのではと思います。そのような意味合いから始めたのが、グループミーティングであります。日々の活動において、目標は？将来像は？などを千差万別に定めるのではなく、共感し共有できるようなものを持てるようにしていかなければなりません。

## 三つのキーワード

いま、必要なことをキーワードにすれば、『人の和』『創造』『行動』が挙げられます。どのような立派な組織体でも、そこに集う人が機能していること、つまり豊かな人間性が醸成されていなければ、形骸化しかねないのではないのでしょうか。谷間を補完し合い、共助の志で接し合うことにより、お互いの連帯意識も高まっていくことでしょう。次に、常に『チャレンジ』『トライアウト』の心を持ちたいものです。是非とも建設的な提案や意見を忌憚なくお聞かせください。理論も大切ですが、それ以上に実践することが肝要です。勇気と持続性のあるアクションを期待しています。言い古された言葉ですが、「為せば成る為さねば成らぬ」であります。一つの行動は百の理論より優るものです。

## 松下幸之助氏の名言

改めて、松下幸之助氏の名言をかみしめたいものです。「どんなに悔いても過去は変わらない。どれほど心配したところで未来もどうなるものでもない。いま、現在に最善を尽くすことである」「失敗の多くは、成功するまでに諦めてしまうところに原因があるように思われる。最後の最後まで諦めてはいけないのである」「たとえ平凡で小さなことでも、それを自分なりに深く噛み締め味わえば、大きな体験に匹敵します」「とにかく、考えてみることである。工夫してやることである。そして、やってみることである。失敗すればやり直せばよい」「知識はなくてもいいんや、熱心ささえ誰にも負けなかったら、必ず道は開ける」「人がこの世に生きていく限り、やはり何かの理想を持ちたい。それも、できるだけ大きく、できるだけ高く」

まもなく1年間の総括と次年度に向けた展望を纏める時期となりました。皆様方からの忌憚のないお声を拝聴させていただきたいと考えています。よろしく願います。

皆様、くれぐれも健康管理にご留意ください。



## Monthly Repo. ならやま

八木 順一

### 2月24日(金)振り替え活動 晴れ 46名+2名

真冬に戻ったような気候だ。まだまだ春は遠い、と実感する。また、活動が延期されたり、中止されたりする回数が今年になって増え、本日も参加者が少ない。打ち合わせでは、明日のシイタケイベントに向けての参加体制の確認や準備、その他、本日からの交通費補助金支給などの連絡が改めて行われる。里山Gはイベントの準備や枯れた松の伐採、エコGはジャガイモの畝作り、そして景観Gは実りの森でのチップ作業と目白押し。また、ビオ班はドジョウ池の泥入れ、花班は花の移植、パト班は観察路の階段補修とこちらも忙しい作業に忙殺される。

### 3月3日(金)振り替え活動 晴れ 45名+2名

振り替え活動日のためか参加者が少ない。そのため予定し

ていた溝の大掃除の協働作業も来週に延期。里山Gはシイタケの菌打ち、エコ



Gはビニールハウスへの牛糞堆肥、景観Gは実りの森での植樹を中心に取り組む。また、ビオ班は池の水抜きを、花班は柵作りや花の寒肥やりを、そしてパト班はミーティングのほかに倒木処理に時間を使う。果樹班からは、来週梅の木に人工授粉を行うことが連絡される。交通費の支給や会費の徴収、その他林野庁関係の事務処理のために、てんやわんやの忙しさにも見舞われる。打ち合わせでは、ニホンミツバチの巣箱の設置場所が紹介される(水田の北側の斜面)。本日から新入会員1名参加。

### 3月9日(木)活動 晴れ 63名+5名

協働作業日。東池からの水路から枯れた草などを全員で除去。しかし、水路の土止めの壁もかなり傷み、補修も必要か。

生き物が暮らしやすい環境にするためには、何が大切かを考えることが必要だ。打ち合わせでは協働作業の

段取りや、施設の施錠の確認はしっかりして欲しいといった依頼などに加え、



間近に迫った新入会員歓迎会の予告連絡があった。今年はシニア大からは8名の新入会員を数えるとのこと。早く自然の会になじんで、戦力になって欲しいものだ。各Gでは植樹やイモの植え付け、そしてサイトの整理などの作業も順調に捗る。また、その他の班は生物調査や花の植え替え、パトロールや梅の人工授粉に取り組む。いよいよ春も本番を迎える。

### 3月16日(木)活動 晴れ 65名+1名

3月も半ばを迎え、サイトの桜の蕾も膨らんできたが、まだまだ寒い。しかし、参加者は多数を数え、春本番に向けて、畑や里山、そして散策路



など、ならやまのあちこちで作業に汗を流す。里山G

は入口附近での植樹、エコGは春野菜の種まき、景観Gは彩りの森の草刈りに取り組む。また、ビオ班は池の整備、花班は施肥や霜よけ除去、パト班はパトロールや観察路の清掃に時間を使う。打ち合わせでは新入会員歓迎会や4月のイベントの紹介・参加要請が主なものになった。

## 里山グループだより

伊良子和夫

### ◆ラクウショウ等を記念植樹

3月9日、16日の両日に、創立15周年を記念して、ならやま里山林の西入口付近にラクウショウ2本とメタセコイア2本、彩の森にイチョウ2本が植樹されました。

ラクウショウ(別名ヌマスギ)は高さ20-30mになる落葉高木。幹の直径は70cmになる。原産地(北米東南部)では高さ50m、幹の直径3mに達するものもある。湿地では膝根(しっこん)と呼ばれる気根を出して育つ。和名落羽松は、羽状に互生する葉の様子を鳥の羽に見立て、枝ごと葉が落ちることから。

メタセコイア(別名アケボノスギ)は高さ25-30mになる落葉高木。幹の直径は1.5mになる。原産地は中国南西部で、日本には1949年にカリフォルニア大学のチェネーが天皇に献上し、皇居に植えられたのが最初。それ以降各地で植栽された。高島市マキノ高原のメタセコイア並木は日本紅葉の名所100選に選定されている。

イチョウ(別名ギンギョウ)は高さ30mになる落葉高木。幹の直径は2mになる。分類上は奇異な位置にあり、例えば広葉樹・針葉樹の区分では如何にも広葉樹に該当しそうだが、むしろ特殊な針葉樹にあたる。樹木としては長寿で、各地に幹周が10mを超えるような巨木が点在している。また、落葉前の葉は鮮やかな黄色に黄葉し、並木道などでは風物となることも多い。銀杏でちょっと一杯という楽しみも期待できる。

以上の3種の木はいずれも樹形が円錐形の美しい高木で里山のシンボルツリーになるでしょう。ところでこれらが大木に育つするには20年、30年とかかるでしょう。私にそれが見ることができるかどうか。

最後に、2月に15周年記念で北斜面部分皆伐実験区跡地に6品種のサクラを植樹しましたが、3月16日には緋寒桜が咲き始めました。すべてのサクラが、咲きそろうのではと期待しています。



里山の今

## エコファームだより

吉村さつき

葉物野菜の収穫もほぼ終わりました。

タマネギ、ニンニク、豆類が暖かくなるのを待っています。玉ねぎの部分は何に当たるでしょうか、クイズで出たことがあります。皆さんはご存知でしたか? 肥厚して重なった葉だそうです。ニンニクは貯蔵葉というそうです。ではソラマメのなまへの由来は? 豆類は普通莢が下向きに着くのですが、ソラマメだけは、上を向いて莢が着くそうです。莢が空を向いていることから「ソラマメ」と呼ぶそうです。育つと莢が重みで下向きになり、収穫時期を知らせてくれます。エコファームでは、美味しい野菜を作る為工夫をしています。

土壌酸度計で土の状態を調べ、作物に適した土に整え、牛蒡や春菊の種を播きました。

手造りハウスでは牛フンを敷き、沢山の腐葉土を重ねます。発酵熱を利用して、夏野菜の苗作りです。

ナス、トウガラシ、レタス、トマト、キュウリ、ニガウリ、カボチャの種を播きました。

良い苗を作るため、有志の方で当番を組み、水やりにも通います。

今年初めて水耕栽培にも挑戦しました。

2月16日 3×3×3センチ程のスポンジの上部を十字に切りこみ種を5粒程播きます。

2月24日 種が割れ、葉が見えています。

3月3日 胡麻粒ほどの双葉が出ています。

3月9日 双葉が丸みを帯びた米粒大です。

3月16日 スポンジの底から根が伸びています。

3週間目頃より、ペットボトルで作った容器に、ハイポネックス溶液を入れ、育てます。根に当たる部分には、土中の状態に近づけるため、黒いもので覆います。上手に育てば、サラダや観葉植物としても楽しめそうです。

家でも同じ日に種を播きましたが、発芽は3日目頃でした。しかし、莖が伸びてしまい失敗に終わりました。知恵を出し合い、美味しい野菜ができるよう頑張っています。

# 景観グループだより

小島武雄

いつもリュック姿で歩いて来ているが、ならやま大通りの住宅地から竹林をほんの一步入った所は、いつもの別世界。冬枯れの里山風景が広がるけれど、ここに来ると寒さは全然感じない。今日も、この素晴らしい里山で活動できることの嬉しさが、そうさせるのかも。では、早春のならやまの今を見



薪棚を見上げて木のいい香りの中

てみよう。たまには猫にも里山案内の仕事させようとならやまに連れて来ました。



記念植樹の桜、15本緋寒桜の蕾ふくらむ



鳥観の丘のベンチで休憩(ペンキ塗らたて)



お昼ご飯まだ～？



里山の今

# パトロール班だより

山本美智子

## ◆ならやま自然観察路

本年度より、花王から観察路整備等の助成金が授与されることになり、メンバー一同、さらに積極的に動き出そうとしています。平素の作業は、観察路の保全と補修、倒木の除去処理、倒木の保護と観察などの保全修理は、主に丸太階段、急坂の手摺り用ロープ張り、観察路の草刈りです。菊川さんを中心に、昨秋より道具や材料を自然木や竹で準備し、階段や危険箇所の補修作業を終了しました。倒木処理では、高所作業は無理ながら、日頃から危険倒木には注意観察し、臨機応変に対処していく。

現在は強風で観察路を塞いだ木を除く作業をしています。「ならやまでのナラ枯れは終息した」と、先月号に報告されましたが、今後は立ち枯れの倒木が増えることが心配されます。特に谷道コース付近の木は、壊滅状態です。この谷道に去年2箇所、希少種の美しい花が咲いていました。昨年咲いていたところの目印に沿って、枯れ木や笹の撤去整理、保護をしています。

また観察路への関心や親しみをと、道標や標識をつけて案内していますが、あまり、詳(つまび)らかにすると、外部からの被害にあたりするので、保護と案内の難しさが課題です。気温変化の激しい3月は、常緑と冬枯れ色の観察路の中で、今は、アセビの花の白、ヤツデの実の黄緑、クロモジの花の黄色、ツルリンドウの実の紅、サンシ



【サンシュユ】

筒状の真紅の花を咲かせ始めました。これからの観察路は、驚きと感動が満載です。心身共にリフレッシュできること請け合いです。

来たれ！ならやま自然観察路へ

ユユの花の黄、ネジキの新枝先の赤などの色が目立っています。2月に協働作業で植樹した桜の中、ヒカンサクラ3本が

**ならやま花だより**

桜木晴代

梅の花も終りを告げ、そろそろ桜の季節が訪れます。15周年記念に植えられた桜のひとつが早くも咲き始めました。**寒緋桜**です。



花弁は5枚  
下向きに咲く  
中国南部、台湾、ベトナムに分布  
石垣島に自生地 天然記念物

植樹された他の桜はどんな花が咲くのでしょうか。



**天の川**  
花弁は10~20枚  
花弁の先端に切れ込みがある  
花には芳香がある  
若芽は黄緑色で花の後に伸びる

妹背



花弁は20~40枚  
サトザクラの栽培品種  
京都府の平野神社から広まった  
普通2本の正常なめしべが突き出ており  
結実すると2コの果実が合着する事も

富士桜(マメザクラ)



花弁は5枚  
下向きに咲く  
萼片は広卵状 蜜腺は葉柄ではなく葉身につく  
関東周辺の亜寒帯から暖温帯に分布

御車返(みくるまがえし)(桐ヶ谷・八重一重)



花弁は5~8枚  
花弁は丸く大きく厚い質感  
10mを越す大木になる  
サトザクラの栽培品種

大島桜 (伊豆大島に多いことからの名)



花弁は5枚  
開花と同時に伸びる若芽は緑色  
(ヤマザクラは赤褐色)  
樹高は20m以上に  
関東南部の暖温帯に分布



里山の今

**ならやま虫だより**

菊川年明

◆ヒオドシチョウ

ヒオドシチョウは、くすんだオレンジ色の中型のタテハチョウ(類)である。出現頻度としては「時々見かける」程度である。このチョウは成虫で越冬し、春になると早々に現れて交尾、産卵して生涯を終える。よく見かけるキタテハやルリタテハの近縁種である。

名前についている「ヒオドシ」は、翅の表面の色彩を、昔の武士が戦場で身につけた鎧の「緋緘(ひおどし)」に見立てたものである。ちなみに緋色は黄色みのある鮮やかな赤色。

翅の裏面はルリタテハなどと同様に褐色系の樹木の幹のような地味な色彩で、翅をたたんで樹木の幹に止まっているとほとんどわからない。ほぼ完璧な保護色である。

幼虫はエノキやヤナギ類の葉を食べて育ち、6月に羽化して成虫になる。このチョウは羽化して暫くすると物陰で夏眠をする習性があり、盛夏には一時姿を見せなくなる。初秋の9月になるとまた現れて、11月頃まで活動し、冬眠に入る。

活動中は主として樹液や腐った果物にやって来て汁を吸う。ときに獣糞上に来ることもあると言



われており、花に来ることはほとんどない。

このチョウを全国的に見ると、長崎県では絶滅寸前種に、千葉、東京、埼玉、宮城、福岡、佐賀、宮崎の各都県では絶滅危惧種に指定されているという。



(写真上は翅の表面・下は同裏面)

**シイタケ菌打ちイベント 実施報告**  
(森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業)

辻本 信一

2月25日(土)、「ならやまベースキャンプ」・「ならやま里山林」におきまして、林野庁交付金事業『森林環境教育・研修活動』の一環として、シイタケ菌打ちイベントを実施いたしました。

参加者は佐保台小学校放課後子供教室の児童22名、幼児6名と保護者19名の47名。

当会からは36名の方がスタッフとして参加、総勢83名が「ならやま」に集いました。



【集合写真】

直前まで不安定な天気が続きましたが、当日は天候に恵まれ最高のイベント日和となりました。

定刻の10時イベント開始。会長挨拶、担当者による作業内容・注意事項説明の後、シイタケ菌打ちが森林資源活用につながり、コナラ植樹が里山保全の活動につながることを子供達にも伝え、楽しく意義のある一日がスタートしました。

午前中二班に別れ、木槌作り・シイタケ菌打ちとコナラの植樹作業を交互に実施しました。



【シイタケ菌打ち】

適度な緊張感を持ってスタッフの言うことをしっかりと聞いてくれました。しかし目の輝きでシイタケが無事大きくなれと祈る子供達の思いがこちらまで伝わってきます。

ヘルメットを着用した子供達が意気揚々と我々が里山に入山。無駄口をたたく子もなく、

適度な緊張感を



【コナラの植樹】

それを見守る保護者の方達も恐らく10年、20年後のお子さんの姿と重ね合わせておられるのでしょうか。お子さん達の生き生きとした姿をとっても満足そうに見守られておりました。

作業場に通じる里山散策路では、「こんな身近に素晴らしい自然があり驚いた」の声、里山の美味しい空気を胸一杯吸いこみ、森林浴を楽しまれておりました。

あっという間に昼食時間、家族で弁当を広げ、自然の中の食事はまた格別、さらに、ならやま名物豚汁が皆さんに振る舞われ、あちらこちらで「美味しい!」「美味しい!」の声。



【ロープ登り】



【丸太渡り】

食事休憩が終わってからも出し物は目白押し。昼からも二班に分れ、各グループで順番に、薪割り機を使つての薪割り作業、冒険心・探検心をくすぐるロープを伝つての急な斜面登り、ならやま里山林内の『遊びの森』では、丸太渡り、ブランコ、木登り・ハシゴ登り、立木の伐採と里山林内での山遊びを心置きなく満喫していただきました。

イベントの最後にはアンケートと引き換えにシイタケホダギと鹿の折り紙のお土産を皆さんに進呈。満足そうな笑顔がはじけました。

スタッフの皆様のご協力を得て今回も素晴らしいイベントとなりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 2月・月例研修会報告

### 探鳥会(2月27日)

勝田 緑

朝は寒かったですが、出発のころには少し暖かくなってきました。絶好の観察日和です。



参加者は13名でした。馬見公園の緑道を歩きだすとみんな自分が見つけた鳥を「あれ何!」「あれは?」と早速声が上がります。

ツグミの仲間のシロハラが葉っぱをひっくり返して虫を探しています。パッパッと葉の飛び散る様子は見ていて飽きません。下見の時は緑道には



シロハラ

ほとんど鳥がいなかったの、ここは早くなんて考えていたのですが・・・本番ではカラスのラブラブやシジュウカラ・エナガ・コゲラの混群があちこちと動き回ってみんなを楽しませてくれました。

彩りの広場ではチューリップがたくさん芽を出していました。ポカポカとした陽気で本当にじっくり見て歩くことができました。バラ園を過ぎたところのドイツトウヒのてっぺんに「ビーン」という鳴き声があります。カワラヒワのさえずりで、

春先にペアの相手を見つけるため、目立つところで鳴いています。羽の黄色の斑が目立ちます。



カワラヒワ



ハシビロガモ

次は下池・上池です。ぐるぐる回っているのはハシビロガモです。



キンクロハジロ

頭の飾り羽が特徴のキンクロハジロ・ホシハジロ・バン・オオバンを見ました。今年

はオオバンが多く見られます。

下見の時ヨシガモをたくさん見たので皆さんにも見ていただこうと思っていたのですが、今日は羽に頭を入れたお昼寝中のヨシガモをやっと見つけました。

昼食はもう少し先と考えていたのですが、みんなエネルギー切れだったので、ナガレ山古墳の近くでとることにしました。食事中はシロハラをハラジロと言ったり、ハラグロやらと大笑いでした。

午後は満開の梅林でいい香りにホッとしたひと時を過ごしました。



ぐるっと回って元の池に帰ってきました。鳥合わせをすると31種いました。暖かくていい1日でした。ここでバスの方と別れました。



歴史文化クラブ 2月研修会  
お水取り発祥の寺・観菩提寺を訪ね  
伊賀上野城と松尾芭蕉ゆかりの地を巡る

中井 弘

3月1日(水)西大寺駅南口に27人が参集した。天気は回復して歴文日和だが、風はまだ冷たい。バスは163号線を一路伊賀市島ヶ原へ向かう。

江戸時代の島ヶ原は、生駒暗峠を通過して河内松原に至る、参勤交代にも使われた大和街道の「島ヶ原宿」として栄えていた。

まず鶯宮神社に寄る。参道入口の巨大な石灯籠に驚かされる。天保14年(1843)、村人が米俵を持寄って積上げ建立したという。125段の石段を登ると本殿がある。創立由来は実忠が祀った東大寺の鶯宮社を、その後ここに勧請したという。

次に観菩提寺(正月堂)を訪ねる。鄙びた里に建つ堂々たる重文の楼門と本堂は、室町初期の改築とされる。実に細部まで優美な造りである。天平勝宝3年(751孝謙3年)東大寺の実忠和尚によって伽藍が再興された。本尊は東大寺二月堂と同じ十一面観音菩薩。ここで行われる「修正会」は創始以来1260年以上の歴史を持ち、東大寺二月堂の「修二会」(お水取り)に先駆けて行われている。鶯宮神社の神主二人が正月堂に入り、御祓いのあと法要が始まる。修正会は2月11日「大餅会式」に始まり、12日は水と火の粉を振りまきながら乱舞する荒行、「韃靼の行法」が行われる。庶民的な行事と厳粛な儀式が合わさったもので、「せきのと」と呼ばれ親しまれている。

伊賀盆地に入る。4百万年前は古琵琶湖の底で、湖底が粘土質で稲作に適さない土壌であった。伊賀の農民は忍者という傭兵稼業に就かざるを得なかった。前方に白亜三層の天守閣が一際目立つ。

伊賀上野城前で川井さんの藤堂高虎の解説。戦国武将でありながら築城の名手であった高虎は、加藤清正、黒田官兵衛と並び称される築城三名人のひとりであった。城郭だけでなく、社寺の建立にも数多くの功績を残している。

高虎は伊賀国津藩藩主に着任した時、前藩主筒井家の居城を、大阪城を見据えた軍事的な城郭に改築した。現存する内堀と30mの高石垣から高虎

の技術力を垣間見ることができた。

浅井長政から徳川家康に至るまで7度も主君を替えたことから「武士は二君に仕えず」の時代、世渡り上手・ゴマすり大名と揶揄された高虎だが、家康は彼の築城の手腕を高く評価して大いに活用、秀忠、家光と徳川3代に仕えたことは特筆される。

石段を下り俳聖殿に至る。旅姿の芭蕉を建築で表現した日本建築史上、傑作の八角堂である。内部には伊賀焼の芭蕉像が安置されている。芭蕉の漂泊の旅についての解説が興味深い。29歳で「貝おほい」を編み、天神宮に奉納して江戸に出る。俳句では食えない環境で、水道工事のアルバイトをしながら俳諧修行を続けたという。46歳の「奥の細道」の旅は5か月、2600kmの長旅であった。いつも同道している門人曾良はこの時一人別行動をとることが多かった。曾良は「旅日記」を著わして、幕府の命による情報収集という忍者仕事をこなしていたのではないかと面白い推理である。



芭蕉翁記念館では「芭蕉と近現代俳句の世界展」開催中で、虚子の句に中村不

折の絵の掛軸や、飯田蛇笏の句の掛軸が必見。車中の俳句クイズでは古川さんが流石の全問正解。

芭蕉の生家にも立ち寄る。芭蕉はここで俳諧を学んだ後、江戸に出て俳諧師となり、新しい俳風を打ち立てたが、51歳のとき大坂の地で病に倒れ生涯を閉じた。

伊賀越資料館に寄る。「鍵屋の辻の決闘」で有名な場所で、寛永11年、荒木又右衛門が渡辺数馬に助太刀して数馬の弟の仇を討った事件である。俗に「又右衛門の36人斬り」と有名だが、実際にはたった2人しか斬っていないという。仇討が好きでないという古川さんの説明が面白い。

期待した月ヶ瀬梅林の梅は、一部で見頃であったが、総じてまだ咲き始めで期待はずれであった。

車内で伊賀忍者の歴史などの解説を聞きながら、予定通りに西大寺に到着した。実に盛り沢山の研修であった。

# 自然教室だより

## 3月・春のならやま自然観察会報告

辻本信一

平成29年3月8日(水)今年2度目となる「ならやま」での自然観察会を実施いたしました。

天候にも恵まれ爽やかな朝を迎えましたが、まだ少し肌寒さが残ります。そのせいか参加者は10名丁度。ならやまの自然をこよなく愛する人たちが集まってくれました。



【観察会参加の皆さん】

定刻の10時観察会開始。ベースキャンプ周辺からサイクリングロード南側の梅林にかけ、競い合って咲く早春の草花を図鑑片手にジックリと観察していきました。決して広い範囲ではありませんが、それでも出会った草花は軽く40種を超え、改めて里山の植生の豊かさを感じました。



【図鑑片手に野草の観察】

ここにその一部を紹介させていただきます。

ナズナ、ホトケノザ、カキドオシ、スズメノエンドウ、オオイヌノフグリ、コハコベ、オランダミミナグサ、ウラボシ、チチコグサ、



【ミドリハコベとタネツケバナ】



【ホトケノザ】

オニノゲシ、キュウリグサ、オニタビラコ、コオニタビラコ、ヨモギ、ムラサキケマン、セリ、ギシギシ、スイバ、ヤマミツバ、セイヨウタンポポ、

イヌムギ、ヒメオドリコソウ、ハルジオン、タネツケバナ、オオバコ、ゲンノショウコ、ミドリハコベ、アメリカフウロ、スズメノカタビラ、ヤエムグラ、ツメクサ、ウシハコベ、チチコグサモドキ、ナガミヒナゲシ等々。

厳しい冬の季節はロゼットの姿で頑張ってきた草花も春の気配を感じ、徐々に本来の姿を取り戻していきます。一つ一つの草花をルーペで覗くと完璧なまでに整ったその姿・形・色合いに言葉では言い尽くせない感動を覚えます。

ひとしきり野草の可憐な姿を鑑賞した後、昼食を挟み昼からは、里山林内を散策しました。



【里山内散策】

残念ながら、近年の暖冬を見越し予想をしていた「コバノミツバツツジ」の開花は見られませんが、ここでひとつの大発見がありました。

散策中に見慣れない葉を付けた幼木を発見。それも1本だけでなく散策路沿いに数本。ブナ科の植物に間違いなさそうなその葉にはどこか見覚えがあったのですが、なかなかそれが何か思い出せません。参加者のひよっとしての一言で、それが「シリブカガシ」だと分かりました。決め手は倒卵形で葉の裏はやや金色を帯び側脈の対の数7つ前後、葉元の形状もくさび形でズバリです。



【里山で見つけた葉】



【シリブカガシ】

シリブカガシと言えば深い光沢のあるドングリで筆者自身一番好きなドングリですが、今まで「ならやま」には無いと決めつけておりました。今回の出会いですごく幸せな気分になりました。この木が無事に大きく育ち美しい光沢の見事なドングリを付けることを今から楽しみにしています。このような大発見もある「ならやま」での自然観察会に次回は是非多くの皆さまもご参加ください。

**やさしい病害虫講座 27**

**「小さいたずらっ子」**

木村 裕

昨年(2016年)の秋、ベースキャンプの裏の背高のつぼの柿の木に鈴なりにになっている果実が突然黒変しました。

何か実が腐る病気が発生したのかと思い、さびついた頭の中の知識?をフル動員したものの、思いあたるものがありません。奥の手でルーペ(拡大鏡)を取り出して果実と葉を調べたところ、小さな黄色の虫が見つかり原因が判明しました。



アザミウマと称する虫で、皆さん方にはなじみのないグループですが、一方ハウス栽培野菜農家にとってはにつつき害虫です。

成虫でも長さ2~3ミリと小さく、色は黄色~褐色、細長い虫ですのでを見つけることは難しいでしょう。幼虫は白~黄色で、やはり細長くてスマートです。主として柔らかい葉の裏に寄生しますが、花にも集まります。



成虫、幼虫とも頑丈なあごで葉の表面を齧って傷つけて、そこから染み出す汁を吸いとります。その結果葉の被害部は、上から見ると白い斑点から斑紋となり、裏面の破壊された部分は日が経つと褐色になります。

成虫は葉の組織内に卵を産み付け、ふ化した幼虫は半月もすれば十分に成長し、蛹となって地上に落下します。

ならやまの柿で発生したのはクロトンアザミウマという種類で、クロトンやサングジュで、ときどき発生します。専門書には柿でも発生するとは書いてありましたが、私にとっては初めての経験でした。

さらに柿ではカキクダアザミウマが発生します。春に枝が伸び新しい葉が開くときに、葉が葉巻のように縦にまるまるのが特徴で、気が付かれた方もいるかも。

アザミウマには花が好きなグループもいます。花卉から汁を吸うグループと、花粉を食べるグループがいます。花卉を傷つけられるので、花の寿命が短くなります。洋ラン、バラ、ヘメロカリスなど花卉の厚いものに被害が目立ちます。海外からのランの持ち込み禁止も、この虫が大きな原因の一つとなっています。

カトレアやデンファレ、カラーなどの葉に白いカスリが発生することがありますが、これはクリバネアザミウマという種類が寄生して、汁を吸ったために生じた被害です。

皆さんに最も親しいのはネギにつくネギアザミウマだと思います。汁を吸われた青ネギの葉は白っぽくなり、よく見ると葉の表面がカスリ状に白く変色しています。



俳らるる景

監修 川井 秀夫

敷筵取れば下萌え命の子

西谷 範子

冬眠を終えた命の息吹きを感じる。昔、館の大看板に蜂が屯した光景を見た。生物の本能に驚嘆した事がある。

遠き日の母の声聞く雛ちらし

西谷 範子

雛祭りのチラシ寿司でしょうか。叱る母の声が耳に残る。少女期の母とのやりとり。追想の一句。

啓蟄や布団の足も躍りてて

八木 順一

蠢動の季節。人間様もご同様か。油断大敵風邪にご注意。寝相の悪さはコントロールは不能ですかな・・・

正直に今年の梅も恙なく

八木 順一

今年も自邸の庭に梅の芳香が馥郁と匂う。待春の気配にこの一年無事息災を願う。梅は咲いたか桜はまだかいなく。

芽吹き待つ翁の庵の大芭蕉

古川 祐司

二月歴史例会。俳聖 芭蕉の生地を訪う。一本の芭蕉の木が象徴的に、春を呼ぶ。

醬をば「はさめず」と云い伊賀は春

古川 祐司

「醬」(ひしお)と読む。昔言葉で調味料のこと。ローカルの醤油屋に皆さん殺到。早春の伊賀に日本の香り。

蕉翁も聴く沓の音お水取

鈴木 末一

晩年、芭蕉は奈良を訪れ名句を残している。他人称を使った新しさが味噌。芭蕉も泉下で苦笑してるやも。

春の子らヤジロベーとなり丸太橋 桜木 晴代

丸太橋は足元が不安定。子らはヤジロベーさながら元気一杯。ヤジロベーがお手柄。諧謔味あり。

薪小屋と菜花畑と森の樹々

桜木 晴代

薪割り現場は正にユートピア。山林も花畑も見えてご機嫌。小屋には成果の宝物。頑張つてチョーダイ。

里山に梅も微笑む皆の衆

羽尻 嵩

なら山梅林。今年是一段と開花が華やか。集う人達にお愛想。今年の実梅一〇〇キロの収穫高を目指すとか。結果はお楽しみ。

別れ霜大地に籠る命あり

羽尻 嵩

「別れ霜」は五月まで使われる。地中から育つ命との葛藤。自然界は厳しいもの。人間界も他人事ではないですぞ。

温室に胡蝶蘭の芽が伸びて

坂東 久平

作者は目下静養中。胡蝶蘭の生育に癒される。春は躍動の季節。早く元気になって坂東節を聞かせて下さい。

故里に亡き母偲ぶ薯植うる

小山 喜子 男

「薯」「薯」「芋」。あの時代、主食はイモばかり。戦中・戦後亡き母の苦勞を偲ぶ。よくイモを植えましたなア。

ぼんやりと春田のなかに棒である 川井 秀夫

陽光は正に春。手を休めて一息入れる。このひととき無念無想棒の如し。生きがいを感じる。



# 癒しの散歩道

春は貴女の優しさに似て

谷川萬太郎



▲羽尻 嵩 「宴日和2」(墨彩画)



▲小島武雄 「狭いところ好き」(陶芸)

あゝ通り馴れたあの街が  
 とても好きだった  
 初めて貴女と出会った  
 暖かな春日和に  
 幸せが過ぎるのが怖い程に  
 時を重ねたね  
 切ない胸のときめきを  
 二人して感じたね  
 見るもの聴くもの  
 そのすべてが喜びに変わる  
 当たり前が幸せと言った  
 貴女が好きだった  
 「さよなら」の四文字は  
 決して口にしないと  
 二人で心に誓ったはずなのに  
 旅立った貴女

古いノートの切れ端に  
 そっと貴女との思い出綴って  
 繋ぎ合わせれば優しくなった  
 あなたの心の故郷が見える  
 みつめ確かめ合いながら  
 互いに育てた愛だったのに  
 いつしか空に舞う風船のように  
 築いた心の絆は消えた  
 嘘をつけず辛かった貴女  
 涙の裏の愛の切なさ辛すぎて  
 新しい春が来るたびに  
 貴女の心の故郷を思いだす  
 思い出は甘く悲しく儂く寂し  
 心の傷を繰り返すまいと  
 さあ旅立とう再びあの青空高く  
 我が心は萌えたちて

皆様方からのご応募をお待ちしています。

絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品

パッチワーク・切り絵など

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

## 活動予定日

4月	6 (木) 27 (木)	13 (木)	20 (木)
5月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

### ◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
  - ② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統  
8：28 発、高の原行き（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統  
8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆連絡先：八木 順一

## 里山

### 4/6 「協働作業の日」

枯死木の伐採・雑木の伐採・枝の整理  
薪割り・玉切り・運搬  
イベント用工作の準備（アースデイ・天平祭）

13 20 27

4/6に同じ+下草刈り

## エコファーム

### 4/6 「協働作業の日」

畑：茄子、唐辛子、里芋の畝作り  
果樹：ブルーベリー水やり

13

畑：カボチャ畑の畝作り／エダマメ畑の畝作り  
サツマイモ畑の畝作り

蕎麦：トラクターによる耕耘・畝づくり予定

果樹：BB水やり、梅林下草刈り

20

畑：里芋植え付け／ショウガ植え付け  
枝豆播種、ラッカセイ播種

蕎麦：ソルゴー畝準備 果樹：BB水やり

27

畑：茄子、唐辛子、カボチャ等植え付け  
黒米苗代作り

蕎麦：ソルゴー種まき

果樹：BB水やり、増し土と肥料やり

## 景観

### 4/6 「協働作業の日」

整備：BC 周辺の整備／筍掘り  
ビオ：西池水生生物調査  
パト：丸太階段補修、草笹刈り  
花：皇帝ダリア園の草引きと柵作り

13

整備：BC 周辺の整備／筍掘り

ビオ：池の整備

パト：観察路整備（助成金対象）

花：矢車菊園の杖立て、草引き

20

整備：彩りの森整備／筍掘り

ビオ：池の整備

パト：丸太階段補修、草笹刈り

花：夏花の種まき、山野草園の植え替え

27

整備：彩りの森整備

ビオ：池の整備

パト：観察路整備（助成金対象）

花：球根類のお礼肥やり、入口花壇の草引き





# 行事案内 part 1

## 自然教室チーム 4月の自然観察会 春のなら公園 桜見物

4月に入りいよいよ桜の時機到来です。

佐保川沿いに移植された「カワヅザクラ」が先陣を切り、既に3月中にその大ぶりで華麗な姿を披露してくれました。

奈良公園では氷室神社のシダレザクラを皮切りに本格的な桜の時期を迎えます。

ソメイヨシノ・ヤマザクラ→オオシマザクラ→ナラノココノエザクラ→サトザクラ→カスミザクラ→ナラノヤエザクラの順で開花し、5月初め頃まで可憐かつ優雅な姿を私達に見せてくれます。

この機会を捉え、自然教室チームでは以下の要領で奈良公園の桜を巡る自然観察会を催します。

咲いて良し、散って良し、の桜の七変化を皆で満喫すべく、今回は観察時期を昨年より1週間早めました。桜の花びらを食む鹿の姿も奈良公園な



らではの光景です。

皆さまも観察会に参加し、色々な角度から奈良公園の自然を堪能してください。

### 【桜の花びらを食む鹿】

多数の皆さまの参加をお待ちしております。

1. 日時：4月4日（火）10:00～14:00 予定
2. 集合：近鉄奈良駅、行基像前
3. 持ち物：弁当、飲み物、有ればルーペ
4. 観察ルート；

春日野園地を中心に奈良公園内散策

5. 追加情報：この時期、鹿の菊座（角を切った残った根元部）が見つかるかも、、、



昨年はAさんが

ゲットしました。（上の写真）  
（担当：辻本）

## 4月月例研修会のご案内 春満開 室生の里のお花見ツアー

- 《日時》 4月11日（火）「雨天決行」
- 《集合》 近鉄奈良駅東の商工会議所前  
9:00（トイレを済ませておいてください）
- 《持物》 弁当、飲み物、雨具
- 《参加費》 3,500円（バス代）
- 《募集人数》 27名（先着順で締め切ります）
- 《世話人》 富井忠雄、上西千代子、羽尻嵩
- 《申込先》羽尻嵩



- 《行程》 見学場所までマイクロバスにて移動。  
足の弱い方も参加可能。

※ 以下の行程は前後することもあります。  
商工会議所前出発＝佛隆寺＝龍穴神社＝  
あさぎりの里公園（花見昼食）＝西光寺＝  
大野寺＝西大寺駅帰着（17:00 予定）

### 《ツアー見どころ》

- ① 佛隆寺— 850年、空海の弟子の堅恵の創建。大和茶発祥地でもある。4月には県内最古の千年桜が圧巻。
- ② 龍穴神社と吉祥龍穴—水を司る龍神を祀る。8世紀、桓武天皇が皇太子の時、ここで病氣平癒を願い祈禱が行われた記録がある。
- ③ あさぎりの里公園—室生寺を見下ろしながら花見の昼食をします。少々ドリンクも出ます。
- ④ 西光寺の城之内桜—樹齢400年のシダレ桜がお堂を覆い尽くすように咲く。穴場。
- ⑤ 大野寺—役小角とか空海の創建と伝えられている。4月には境内の樹齢300年のシダレ桜などが咲き誇る。対岸の高さ30mの岩壁に刻まれた弥勒磨崖仏は鎌倉時代の僧の制作による。



## 行事案内 part 2

### ◆『アースデー 2017 in なら』

当会では春恒例のならコープ主催「アースデー 2017 in なら」イベントに今年も参加致します。

日 時：4月23日(日) 10～14時

場 所：国営飛鳥歴史公園 石舞台 芝生広場

出 品：自然工作(モックン、カエルストラップ、ジュズダマブレスレット) 各100セット

本イベントは、さまざまな市民がつどい、つながり、豊かな自然を感じつつ、自然との共生や生き方を学び考える機会とし、持続可能な社会を目指す心豊かな奈良の人々が増える事を意図し開催されるイベントです。広い芝生広場では、食べ物屋さんはじめ体験コーナー、フリーマーケットなど、毎年多数のお店が並びたくさんの家族連れ、友達同士が訪れます。是非皆さんもお越し下さい。合わせてスタッフとして御協力頂ける方の募集も行っております。

希望者は事務局(辻本)まで御連絡下さい。

\*\*\*\*\*

### ◆ 平城京天平祭春 2017 『ものづくり広場』

天平祭実行委員会よりの申し出を受け、2年ぶりに平城京天平祭・春 2017 『ものづくり広場』に出展参加いたします。

日時：5月3日(水)・5日(金) 10～16時半

ならやま活動日の5月4日(木)は閉店とします

場所：平城宮跡内特設会場

出品：楽しい自然工作(ブンブンゴマ、クマのペンダント、ジュズダマブレスレット)

1日各100セット

『ものづくり広場』では、平城京天平祭にたくさんの子供たちや大人に来ていただき、ものづくりの大切さ・楽しさを体験し、学んで頂きます。当会では、趣旨に賛同し、子供達の創造力を育み、お父さん・お母さんと一緒にものづくりを楽しんでもらえる出展をめざします。是非皆さんもご家族と一緒に御越し下さい。合わせてスタッフとして御協力頂ける方の募集も行っております。

希望者は事務局(辻本)まで御連絡下さい。

### 創立15周年記念特別企画

## 「越の国歴史探訪の旅」ご案内

3月号の「青垣春秋」でも触れましたが、歴史文芸クラブは創立15周年記念特別企画として「越の国歴史探訪の旅」を実施します。

対馬暖流の流れる日本海沿岸は、各地に潟湖が発達して良港を形成し、縄文・弥生の昔から大陸交流の表玄関でした。当クラブは、これまで「古代出雲」と「古代丹後」の歴史探訪を行ない、日本の歴史や神話に大きな影響を及ぼしてきた日本海文化について学んできました。今回はその第3弾として越の国を訪ねます。

継体  
伝承の能「花筐」  
(上村松園)



6世紀初、越の国の男大迹(ヲホド)王が、ヤマト政権に迎えられて、大王(継体天皇)の位につきますが、北陸の地から大王が生まれた経緯は謎に包まれています。今回の旅は、

かの地に残る数多くの伝承に触れ、史跡を訪ねて、想像の翼を拡げてみたいと思います

訪れる先には継体ゆかりの史跡だけでなく、越前和紙の里の見学や、北前船で栄えた三国湊の散策、曹洞宗大本山の永平寺では宗祖道元の思想に触れ、名物「越前そば」も楽しめます。

川井代表以下の越前委員会のメンバーが、15周年記念に相応しい歴史文芸企画をしました。「越の国歴史探訪」のロマンの旅に奮ってご参加下さい。

### 《実施要領》

- 1、実施日：5月30日(火)、31日(水) 一泊  
宿泊先：国民休暇村「越前三国」
- 2、募集人数：28名(満員になり次第締切り)
- 3、乗り物：生駒交通デラックス観光バス
- 4、費用：25,000円(1泊4食付き)
- 5、申込：メール・ファックスにて下記まで  
歴史事務局 古川祐司宛

## 平成29年・3月度幹事会報告

日時：2月28日(火) 14:00~17:00

場所：奈良市中部公民館 4F 第2講座室

出席者：21名 欠席者：2名

I 会長挨拶：次年度取組み。助成金関連報告。

### II 事務局・会計報告

- ① 会員数 151名 (退会1名、入会1名、増減無)
- ② 会計報告：2月度収支・予算執行状況報告

### III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3ヶ月並びに当月スケジュールの検討と確認  
5/28 朝日子供教室、5/3, 5 天平祭出展参加  
月初の共同作業は水路整備実施
2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明  
H28年度グループ別予算執行見込み報告  
新年度より果樹園G、蕎麦G活動予定も記載
3. 月例研修会 (報告と予告)
  - ・2/27 探鳥会 (馬見丘陵) 実施
  - ・3/22 明日香古墳巡り予定
4. 自然教室 (報告と予告)：
  - ・2月行事無し
  - ・3/8 ならやま自然観察会予定
5. 歴文研修 (報告と予告)：会報記事参照
  - ・2月研修会
  - ・3/1 島ヶ原・伊賀上野予定
6. イベント (報告と予告)：会報記事参照
  - ① 2/25 シイタケイベント実施 参加者 47名
  - ② 3/23 新入会員歓迎会開催予定
  - ③ 4/23 アースデー参加：申し込み手続き済み
  - ④ 5/20 第16回通常総会ボランティアインフォメーションセンターに会場予約。
7. その他
  - ・各種助成 H28年報告、H29年申請状況報告
  - ・H29年度年間スケジュール検討
  - 盆休み設けず
  - 12/21 御用納め
  - 1/11 仕事始め

### IV. 広報関係：ネイチャーなら4月号編集確認

次回幹事会は、3/28(火)14時奈良市中部公民館  
以上

## ◆ 申し合わせ ◆

- \* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。
- \* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。  
奈良県北部の降水確率は、奈良気象台17時発表。  
(<http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html>)
- \* 臨時活動日を月曜日にする事があります。  
(事前に担当役員から連絡します。)

## 5月ならやま活動&行事予告

- \* 5月20日(土) 奈良・人と自然の会 総会
- \* ならやま活動  
5月4日(木) 協働作業の日
- \* 朝日親子自然環境教室  
5月28日(日) ならやまベースキャンプ
- \* 自然教室  
5月16日(火) 新緑のならやま自然観察会
- \* 歴史文化クラブ  
5月30日(火) ~ 31日(水) 特別研修会  
「越の国に継体大王のルーツを訪ねる」
- \* 天平祭  
5月3日(祝)・5日(祝) 会場：平城宮跡



## 会報誌【ネイチャーなら】・第183号

発行：奈良・人と自然の会  
会長 鈴木末一

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平